測衛星搭載センサーの感度特性

375. 西山　宏・花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理)：回転実験装置について

376. 高橋延男(気研・衛星)：開放型小型風洞について

377. 田端　功・高橋克巳・穐田　巌・岡田芳隆・内藤恵吉(気研)：高層観測用高出力ライダー装置について

378. 青柳二郎(気研・衛星)・飯島純男(東海大)：ドップラレーダによる水平風の測定

379. 青柳二郎・松浦和夫(気研・衛星)：気象研究所大型気象レーダについて

380. 井沢龍夫・中沢哲夫(気研・台風)：衛星資料解析装置(ASDAS)を用いた画像処理

381. 笹野泰弘・広原泰英*・清水　浩・竹内延夫(国立公害研・筑波大*)：スキャンニングレーザーレーダーで観測されるエアロゾル分布パターンの歪み補正について

382. 田中　浩・山中大学・小野　晃(名大水圏研)：成層圏大気球観測に用いる電離式微風計(I)

383. 真木太一・磯部誠之・谷　信輝(農技研・気象科)：農業技術研究所に設置された風洞施設について

秋季大会の講演持ち時間の短縮のお知らせと講演者へのお願い

10月29～31日の3日間京都市で開かれる日本気象学会秋季大会への講演申込み数が245編の多数に達しました．講演数が多いことは学会活動の盛んな証左として喜ばしいことですが，定められた時間内に消化するためにはどうしても1題目の持ち時間を12分に短縮するとともに，下記のような不条理な制限をせざるを得なくなりました．講演者は下記の項目を順守して効果的な発表を行なうよう予め準備をお願いします．

1. 1題目の持ち時間は12分とする。10分以内で講演を終了し残り時間を質疑討論に当てる．

2. 12分を超過した場合には座長が講演の打ち切りを命じ，座長の指示に従わずなお講演を続ける者にはスライドの映写の中止など講演発表が実質的に行なえないようにする場合もある．

3. スライドの枚数は10枚までとし，それ以上は受け付けない．

なお，今回はやむを得ず突然このような方法をとりましたが，講演数が年々増加してきている現状に鑑み，同じ題で「その1」，「その2」としたものや，類似した題目で2件出された場合には1題目にして頂くことも次回から採用せざるを得ないと考えています．さらに，大会日数，セッション数の増加など抜本的な改善策については理事会等で論議する予定ですので，御意見やアイディアのある方は講演企画委員会へお知らせ下さい．

(講演企画委員会)

日本学術会議会員選挙の立候補者の推薦についての報告

日本学術会議第12期会員選挙への立候補に当り，下記2名の会員が気象学会の推薦を希望するむね申し出がありましたので，さきにお知らせした手続きに従い，常任理事会として推薦を決定しましたので報告します．

記

増　田　善　信

猿　橋　勝　子　　(申し出順)

(日本気象学会常任理事会)